

下命事項：これまでに抽出された課題やニーズなどの中から優先順位及び実現可能性を整理した上で、次期障害者・児計画に盛り込む施策を検討する。

## 現状分析

### 現状1：高齢化に関して

高齢化に伴う支援ニーズの変化に対して十分な支援体制が整っていない。

- ・ 障害特性だけでなく、加齢に伴う生活のしづらさへの対応。
- ・ 企業就労を目指さない方へのあるべき支援とは何か。
- ・ 企業から地域へ、定年退職に対する取り組みの整備。
- ・ 住み慣れた地域で安心して生活していける取り組み。
- ・ 高齢の方が働けるということを雇用側にしてもらう方法。

### 現状2：支援に関して

支援ニーズの多様化に伴って、より個別化された細やかな支援が必要とされているが、支援体制の整備が追いついていない。

- ・ 若年層は配慮事項の見極め、中高齢者は身だしなみなど、就労のための自己理解を深めることへの困難さがある。
- ・ 生活面医療面のニーズが増えており、それらを支える機関との連携をより充実していく必要がある。
- ・ 様々な分野の関係機関と連携をする必要があるが、お互いに何ができるのか、どんなところなのかが共有しきれていない。
- ・ 就労を目指す方、障害者支援に関わる方、雇用主などが、障害者の就労支援に取り組む方法や基礎的な知識、支援の流れや連携のポイントなどを共有できる機会やツールがない。

### 現状3：運営に関して

地域で支え合える環境の構築の推進が必要である。

- ・ 関係機関とのより丁寧な連携や、きめ細かなサービス提供を行う上で、マンパワー不足が課題となっている。
- ・ 障害福祉サービスの事業所を運営していく上で、利用者の確保（入口）と次のステップへ進む意欲の確保（出口）に関する課題がある。

### 現状4：障害者雇用に関して

働き方が多様化してくる中で、障害者雇用の裾野も広がりを見せているため、より幅広い支援ニーズに対応できるよう取り組むことが必要である。

- ・ 重度障害のある方の働ける機会が十分でない。
- ・ 企業の障害者雇用に対する理解や取り組みへの啓発活動ができていない。

### 現状5：工賃向上に関して

就労継続支援B型の利用者が安心して自分らしく生活していくための取り組みが必要である。

- ・ 工賃向上していくため、品質向上などに取り組みをさらにしていく必要がある。
- ・ 利用者が受けていた助成金がもらえなくなるなど、工賃が増えることにより、利用者の利益や就労への意欲、モチベーションにつながりにくい状況がある。

## 課題

就労を目指す方、支援者、雇用主、関係機関の分野を横断した障害者の就労支援に関する基本的な情報の共有

住み慣れた地域で安心して生活していくため、企業から地域へ、そして地域で支えていくノウハウの蓄積

工賃向上のため品質向上促進と就労継続支援B型利用者の制度利用に関する取り組み

短時間就労や在宅就労など多様な働き方ニーズに応えられる働き方の仕組み作りや体制の整備

## 施策